

環境と健康

環境保健学分野

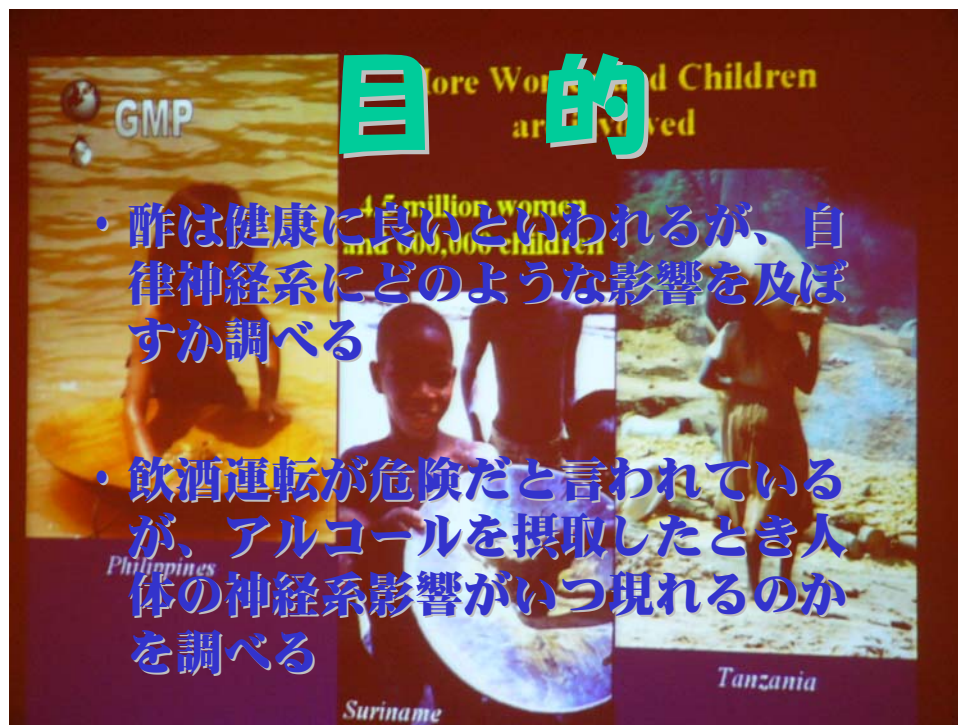
奥田 佑道 加賀 勘家
高桑 未里 貫井 義久
藤部 嘉美 本郷麻依子

Slovenja

アルコールおよび酢の 人体に及ぼす影響

奥田 佑道
貫井 義久
本郷麻依子

Ljubljana, Slovenja



対象

- ・ 20～26歳の健康な男性学生10名
- ・ 実験前日は飲酒を控える
- ・ 実験当日は薬 タバコ カフェインを控える



研究デザイン

酢の自律神経影響

- ・ 酢30mlを150mlのオレンジジュースで割ったものを摂取
- ・ 摂取前、15、30、45、60、90、120分後に心電図のRR間隔時間の測定を行う
- ・ 別の日の同じ時間帯に对照実験（180mlのオレンジジュースのみを摂取して測定）を行う

アルコールの神経影響

- ・ 25度焼酎200mlを180mlのオレンジジュースで割ったものを摂取
- ・ 摂取前、1時間後、2時間後に神経行動学的検査および視覚誘発電位の測定を行う
- ・ 別の日の同じ時間帯に对照実験（180mlのオレンジジュースのみを摂取）

研究方法

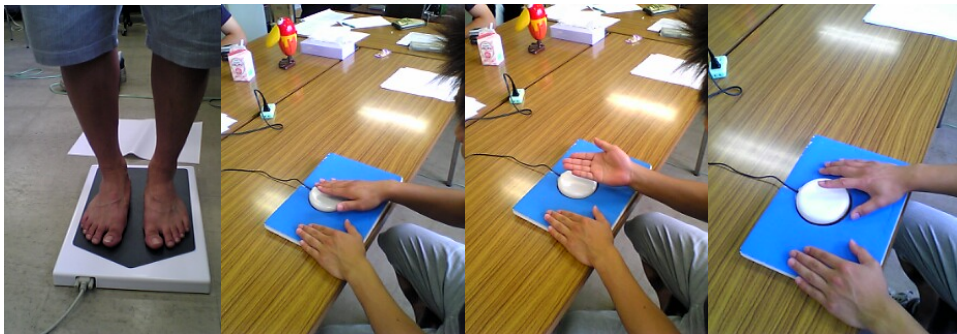
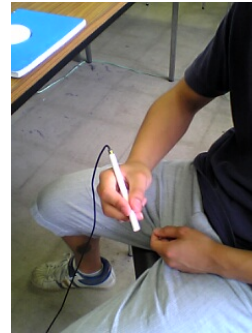
- ・ 視覚誘発電位の測定では、フラッシュ刺激とパターンリバーサル刺激を使用し、アルコールの中樞神経影響を検討する



ゴーグルを用いたフラッシュ刺激

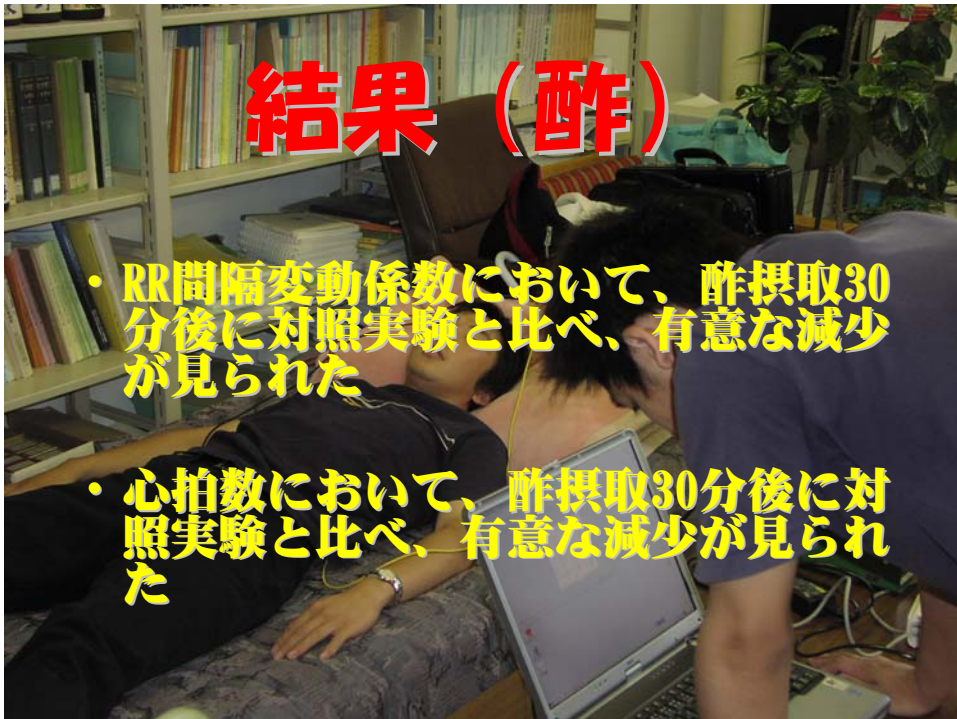
研究方法

- ・手の振るえ、身体重心動揺、リズム行動、人差し指による連打回数を測定することにより、アルコールによる神経行動機能を評価する



結果（酔）

- ・RR間隔変動係数において、酔摂取30分後に対照実験と比べ、有意な減少が見られた
- ・心拍数において、酔摂取30分後に対照実験と比べ、有意な減少が見られた



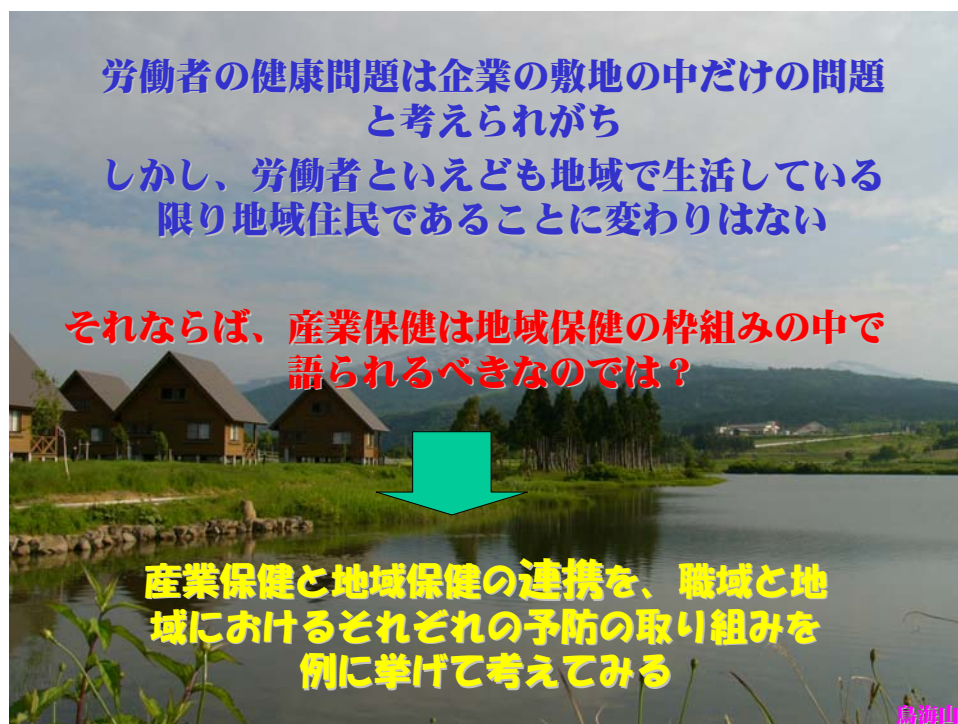


産業保健と地域保健の連携

～予防医学の取り組みを参考に～

藤部 嘉美
高桑 未里

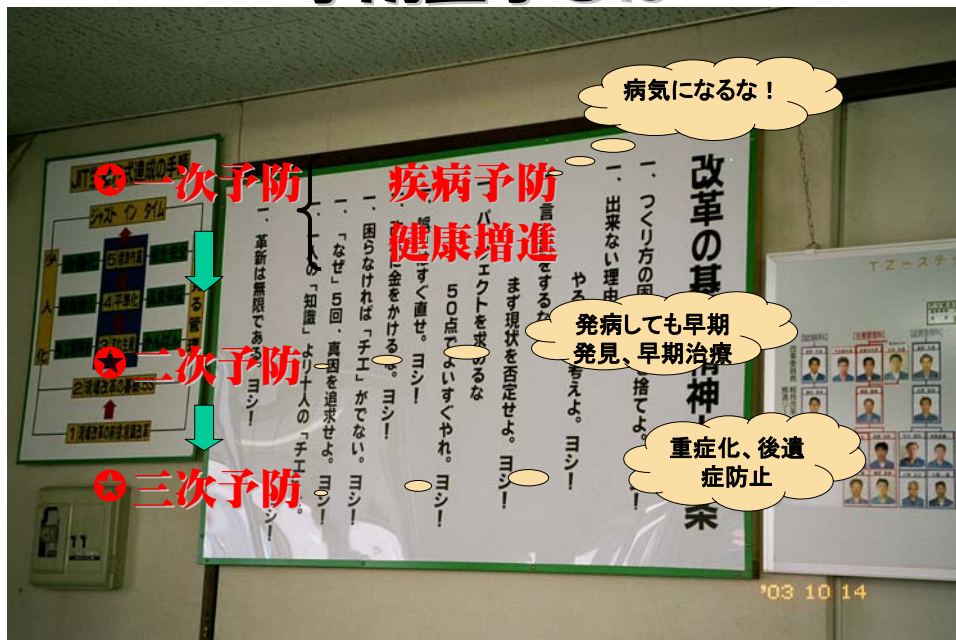




見学させていただいた施設



< 予防医学とは >



一次予防とは・・・

「疾病のリスクを高める要因の除去や、リスクを低める要因の付加によって罹患率の減少をめざす行為」

例)

予防接種	(宿主要因に対する予防対策)
環境改善	(環境要因 ")
食生活改善	(病因 ")
健康教育など	

地域における一次予防

①乳幼児健康診査（1歳6ヶ月児）



六郷町保健センター

②栄養保健活動



千畑町保健センター

③二種混合ワクチン接種



仙南金沢小学校

④老人保健施設における食中毒講演



六郷町老人保健施設 杏授苑

職場での一次予防・・・環境改善⇄産業医の職場巡視



松下電器神戸工場

労災死、昨年1年間で1628人 厚労省まとめ

2004. 4. 29 毎日新聞

昨年1年間に労働災害で死亡した人は1628人で、前年より30人減少したことが28日、厚生労働省のまとめで分かった。労災による死者数は1961年の6712人をピークに減少傾向をたどっている。3人以上が死傷した重大災害は249件で、前年より18件多かった。業種別にみると、建設業の548人（前年比59人減）が最も多く、全体の33.7%を占めた。続いて製造業293人（同18人増）、陸上貨物運送事業241人（同7人増）だった。



作業者に対する“労働衛生教育”が重要!!

大阪産業安全技術館



一次予防のもう1つの側面

「疾病予防から **健康増進**へ」

＜健康増進＞ health promotion

積極的に健康な状態を獲得する

禁煙、適度な運動、過度の飲
酒の禁止、適正体重の維持、適
正な睡眠時間といった
ライフスタイルの改善

職場での健康増進 →
例. 健康松下 21 喫煙対策バッジ



地域での健康増進

例. 大阪府立健康科学センター(ゲンキーフ大阪)



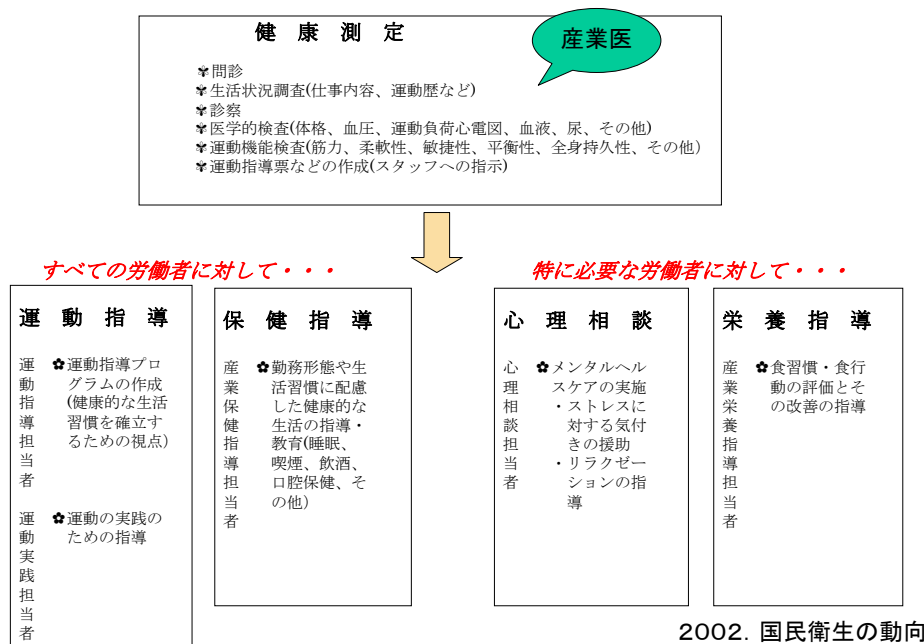
職域での健康増進に関して・・・

労働者の高齢化による心身機能の低下や、技術革新による作業工程の急速な変化に伴うストレスの増加⇒**労働災害、職場不適応**

- ・ 1998年労働安全衛生法改正
- ・ 労働者の心身両面にわたる健康の保持増進を図ることは、事業者と労働者の双方の義務
- ・ 厚生労働省によるTHPの推進（専門スタッフの養成など）

喫煙対策 メンタルヘルス 生活習慣病予防が職場の主な取り組み

トータルヘルスプロモーションプラン（THP）の概要



二次予防とは・・・

「疾病を早期発見 早期治療することによって死亡率の減少をめざす行為」
 例) がん検診、基本健康診査など

三次予防とは・・・

「疾病による機能障害を防止し、リハビリテーションやデイケアを行うことによって、患者の社会復帰をめざす行為」
 例) 通所リハビリテーションなど

二次予防～健康診査後の個別指導～



千畑町保健センター

職域における二次予防～中小零細企業 の特殊健康診断など～



大阪府立公衆衛生研究所

地域における三次予防

職域における三次予防

通所リハビリテーション



職場における配置転換、休養、休暇



写真で見てきたように、職域と地域における予防の取り組みは様々ある



それぞれの特徴を生かしつつ、
産業保健と地域保健とを連携させて、
よりよい健康づくりを推進できないだろうか？

ポートタワー

連携①

産業保健推進センターや産業安全技術館など
産業保健に関わる施設を地域住民に積極的に
開放する

- ◇ 地域住民が産業保健（労働衛生）に興味を持ちやすくなる
- ◇ 働いている本人や家族の健康に対する関心が持てる！

連携②

地域の臨床医が労働者の健康を考えると、
職域ではどのような健康管理がなされ、どん
な予防対策がとられているのかという産業保
健の視点をもつ

- ◇ 疾病の予防に重点をおいた具体的な助言が可能となり、労働災害や職業病の発生を未然に防ぐことができる！

連携③

現状では、労働者を含む壮年期においての健康管理体制は、老人保健法（地域保健）、労働安全衛生法（産業保健）と別々の法体系に基づいている

産業保健分野と地域保健分野が保有する個人の健康関連情報を相互に交換できるシステムを構築する

- ⇒ 失業、定年による産業保健から地域保健への健康管理の移行がスムーズになり、生涯を通じた健康づくりの実現！

※プライバシーの保護

連携④

産業保健連絡協議会や産業保健推進センターが開催する健康相談会に、地域保健に関わる臨床医や保健所長が参加する

- ⇒ 産業衛生分野に地域からの意見が取り入れられ、地域住民の中の職業病の発見が容易に！

結 論

😊 産業保健と地域保健は、それぞれ別個のものではなく互に関連している。産業保健を地域保健の一部としてとらえて互いに連携することにより、生涯にわたる健康づくりが可能になると考える

😊 様々な職場を見学し働く人々のおかれている環境を知ることは、個人の生活背景に目を配った医学的助言をおこなう上での一助となる

神戸港

皮膚の状態とその関連要因

—秋田大学の調査から—

Seychelles

加賀勘家

研究目的

- 秋田県民女性は他県の女性よりも白いなどと言われ、それを部分的に支持する文献もあるが、それが男性においても当てはまるのかを、本調査研究から検討する

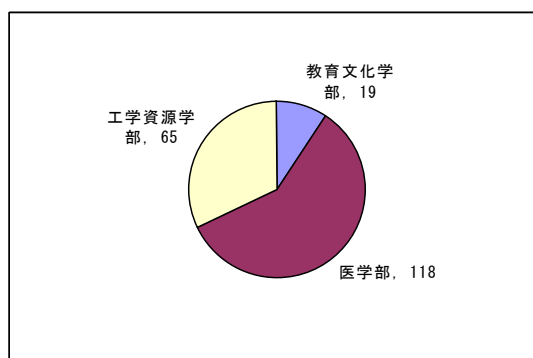


秋田県玉川温泉



研究対象

- 本調査に理解を示した、秋田大学に在学する男子学生で、除外項目に該当しなかった202名



内訳

研究方法

- ・ 調査期間：平成16年6月7日から7月3日まで
- ・ 調査場所：手形キャンパスと本道キャンパス内
- ・ 調査方法：①質問票調査（口頭質問含む）
②皮膚明度（L値）計測
③角質水分量計測
④皮膚表面の撮影

鳥海山

調査内容

質問票の内容

- ・ 所属学部
- ・ 学年
- ・ 年齢
- ・ 所属部活動 サークル名
- ・ 主な部活動 サークル参加曜日
- ・ スキンタイプ
- ・ 出身地
- ・ 秋田県在住期間
- ・ 皮膚疾患の有無
- ・ 日焼けした機会の有無
- ・ 日焼け防止対策期間の有無

口頭質問

- ・ サングラスの
装着頻度



調査内容 —角質水分量—



調査内容 **—皮膚のきめ—**

- ・ 額、左上腕内側部、臍周辺部の3点で撮影
- ・ 額、左上腕内側部で4枚ずつ、臍周辺部で6枚撮影



分析方法

- ・ 回答表の内容を数値化する
- ・ 皮膚の明度については、L値の平均値を求める
- ・ 角質水分量については、角質水分量の平均値を求める
- ・ 皮膚のきめについては、撮影した画像から皮膚の溝の長さを任意の20箇所測定し、平均値を求める
- ・ 得た数値を統計処理する



結 果

- ・秋田県内出身男性と秋田県外出身男性で、色白さ、角質水分量、皮膚のきめについて違いは認められなかった
- ・角質水分量は、運動部の方が高いという結果が得られた
- ・肌のきめは、医学部生と工学資源学部生で差が見られた

白神山地 青池

- ・秋田県内出身男性と秋田県外出身男性で、色白さ、角質水分量、皮膚のきめについて違いは認められなかった
- ・角質水分量は、運動部の方が高いという結果が得られた
- ・肌のきめは、医学部生と工学資源学部生で差が見られた

自神山地 青池

